第2章　京都市の維持向上すべき歴史的風致

1　京都市の全体像

⑴　概要

京都市の維持向上すべき歴史的風致は，京都を育んだ豊かな自然と，千年をこえる首都の歴史と文化が織りなす都市空間および歴史文化遺産群，伝統を受けつぎ革新を求める人々が営む文化や行事，芸術が一体となって形成している，日本はもとより世界にも類を見ない市街地の環境である。

⑵　京都と自然

平安京遷都に際して，「山川もうるわしく」と詔にあるなど，京都盆地の自然の美しさがくり返し強調されている。立地の理由には，もちろん政治的・軍事的な要因や呪術的なものもあったが，しかし東に鴨川，西に山陰道，北に船岡，南に巨椋池があり，「四神相応」の地形となっていること，さらには北の船岡，東の神楽岡，西の双ヶ岡の「平安京の三山」が都の地の「鎮め」をなしていたことなど，古代的な世界観のもとで，山々とは特に大切な意味をもっていた。

世界文化遺産「古都・京都の文化財」のほとんどが周りの山河と深くかかわり，自然とともに豊かな歴史と文化を育んできたが，平安京を京都たらしめたもの，また現在でも京都を京都たらしめているものは，京都を包みこむ美しい自然なのである。京都とその自然は，日本を代表する景観であり，日本の原風景といってよい。

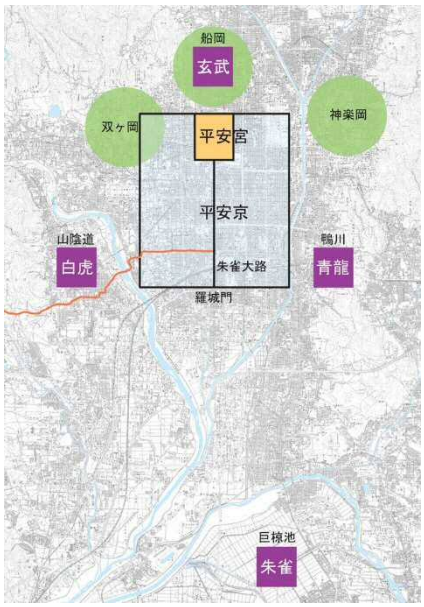

図2-1　京都と自然

⑶　京都の都市構造

平安京以前から京都盆地には田畑が広がり，村々が点在していた。八坂神社のように，地域の人々の信仰を集める社もあった。

平安京は，律令国家の首都構想のもと，美しい山並みに囲まれた要害の地に建設された日本的な都城であった。その条坊制の都市システムは，藤原京から平城京，長岡京，平安京へと百年にわたって経験を積み重ね，工夫を加えてきた都市計画技術の精華といってよい。平安京そしてその都市理念は時代を越えて生きつづけ，鎌倉や江戸などの都市の理想像となったことも注目される。

京都は中世から現在にいたるまで平安京の大路・小路の上に都市空間をつくり続けてきた。ただ京都の歴史には，衰退・成長・再生・拡大・変容など，いくつもの紆余曲折があった。大きなできごととして，右京の衰退，一条北辺への拡大，白河・鳥羽の都市開発，室町幕府の大規模開発（土御門東洞院内裏・相国寺・室町殿の造営），戦国動乱による衰退（小京都化），織田信長や豊臣秀吉・徳川家康による近世城下町化，さらに近代の都市計画事業などがある。また底流として，平安京の解体と中世都市化，近世京都の高密化と洛外への拡大をもたらし，辻子（突抜・新道・路地），巷所（道路を宅地化したところ）を創り出した都市住民による「まちづくり」がある。

図2-2　平安京と現在の重ね図

出展　「平安建都１２００年記念　甦る平安京」